

# 平成28年度 調布市立 染地小学校 学校評価報告書

様式1

領域	自己評価結果の概要	学校関係者評価結果の概要	次年度への改善策	次年度優先順位
学力向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>算数において低学年はTTによる複数教師による授業体制をとっている。中学年以上は「はちのこ」「ぐんぐん」に分けた習熟度別学習を行っている。これは、基礎基本の定着に効果的であった。</li> <li>教員の授業力向上への意識が高く、一人一人に分かる授業を目指して、校内研究ではユニバーサルデザインを取り入れた授業の構築を図っている。</li> <li>学校生活アンケートによると、「授業の中で自分の考えを積極的に発表できるようになった」等の肯定的意見が90%を超えた。</li> <li>授業規律や日常の教師による働きかけが児童の学習意欲向上を促している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学力の向上には学校の教師全員の教える意欲が必要ですが、染地小学校の先生は良く取り組んでいます。小規模校の利点を生かした、きめ細かな指導を今後も望みます。</li> <li>低学年の複数教師の授業は、子どもの安心につながり、中高学年の算数少人数は、子どもにとってじっくり学べる場となっているから、継続して欲しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>低学年の算数複数教師による授業は、SSや学校ボランティアと協働しながら継続し、さらに丁寧な内容とし、楽しいと感させ全ての学習への基盤とする。</li> <li>中高学年の算数習熟度別学習においては、ここ数年の努力が数値として現れ基礎基本は定着してきた。学習度の到達の早い児童には、さらに次なる発展的内容とするため、個人をしっかりと把握し、別課題を与える等の授業とする。</li> <li>校内研究をさらに推進し、全ての児童がわかるを体感できる実践的な内容とする。</li> <li>更なる校内授業規律の体制を維持し、授業を積極的主体的に学ぶ気運を醸成する。</li> </ul>	A
健全育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常的な教師からの働きかけ、児童の主体的な活動による運動や集会であいさつを行ったことは、明るい学校生活に繋がった。これは、基本的な生活習慣である礼儀という躰にもなった。</li> <li>全学年が交通安全教室を実施し、交通ルールを学び、交通事故がなかった。また、調布警察署から交通安全優秀校の表彰をしていただいた。</li> <li>児童の健全育成に関して、校内委員会、不登校対策委員会が活発に機能し、さらに、特別教室専門委員、スクールサポーター、スクールカウンセラーが連絡を取り合いながら問題解決に向けて活動した。</li> <li>教職員間では児童情報の共有を常に行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本当に気持ちの良いあいさつが校内で溢れています。子どもの様子も明るく、来校しても気分が良いです。これからも染地小の伝統を伝えていってください。</li> <li>先生方が朝、学区の交通見守りをしていることを知り、大変感謝しています。あまり無理なさらず地域にお願いしても良いのではないのでしょうか。</li> <li>一人一人を大切にしている教育方針は実現されています。学校の先生の負担が気になります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>明るく元気な学校とするため、学校の取り組みとして基本的な「あいさつ」「返事」の習慣の確立を図る。</li> <li>授業における発言の仕方の統一をし、他人の意見の尊重と自己存在感を高める。</li> <li>交通安全指導は保護者や警察と連携して開催し、さらなる交通事故防止に繋げる。</li> <li>関係諸機関や今ある校内システムを活用し、一人一人を大切に教育を進める。</li> </ul>	B
健康・体づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校アンケートによると運動が好きな子どもが90%を超えている。体育の複数教師による安心した分かりやすい授業の工夫がなされている。また、ロング昼休みやロング中休み、放課後遊びの設定が効果的であった。</li> <li>オリパラ教育としてオリンピック出場のやり投げ村上選手の講演と実技指導は視覚的に子どもの運動への意識を高めた。また、陸上の世界的指導者である澤村教授に「正しい走り方教室」をしていただき、6年生の走力が向上した。</li> <li>食育朝会で児童の委員会が中心となり、栄養や給食の食べ方を発表したことは健康への意識付けとなった。さらに、栄養士が総合の時間に「食育」を授業したことは効果があった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>昼休みや放課後に先生と一緒に遊んでいる姿は素晴らしい。これからも一緒になって運動をして、運動好きな子どもにして欲しい。しかし、これも先生方の負担が気になります。</li> <li>今年も他校では呼べないようなオリンピック選手と指導者を招いていただき感謝しています。来年度も素晴らしい内容を期待します。</li> <li>食べることは体づくりの基本ですが、朝会や昼の給食放送は大変良いと思います。保護者と一緒になった給食の調理教室などもあれば良いですね。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生涯スポーツを見通した学校体育であるので、まずは数多くの体験をさせ、見せる。そのための運動(遊び)の場(時)を確保していく。</li> <li>本物のスポーツ選手との交流から、スポーツへの意欲を向上させる。</li> <li>食育の授業を、生活科や総合の時間で取り入れ、健康な体と食べることを関連させる。</li> <li>食育に関しては、児童だけでなく、何らかの形で保護者啓発を図る。</li> </ul>	C
保護者・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校行事や保護者参観の後は、毎回アンケートを実施した。全て記述式としたので、各保護者の願いや感想を具体的に知ることができた。さらに、教職員全体でその意見を共有した。</li> <li>学校アンケートの回収率がほぼ100%となり、学校に対する関心が強まった。</li> <li>学校開放、染地健全育成、おやじの会、PTAから第50回開校記念式典のみならず、各種学校行事への自発的な支援をいただくことができた。</li> <li>地域行事への子どもと教職員の参加が多かった。地域の中の学校意識を築くことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ふれあい給食は地域の高齢の方の楽しみになっています。これからも続けてください。</li> <li>保護者や地域の意見を受け止めていただくのは良いことです。</li> <li>地域では子ども達も元気です。今後も地域と学校は連携していきましょう。</li> <li>50周年記念式典は染地小の良さが発揮された式典でした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者、地域の願いを取り入れた学校運営を行うために、授業参観や各種行事後は保護者アンケートを実施する。</li> <li>学校開放委員会、PTA、健全育成協議会等の関係諸団体との意思疎通をはかるため、教職員は各種外部会議に極力参加したり、子どもは地域行事に参加させる。</li> <li>学校公開に多数の保護者が来校していただけるように、子どもと一緒に楽しく学んだり学んだりできる企画をする。</li> <li>学校施設を可能な限り貸し出したり、開放することにより、地域の中の学校意識を高める。</li> </ul>	C
特色ある教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>小規模校の利点を生かし、全校が家族という異学年交流の「ハチの子タイム」を実施し、上級生は下級生をいたわり、下級生は上級生を信頼することができ、全校が仲良くなれた。</li> <li>一人一人を大切にしている学校目標を掲げ、校内体制の充実と関係諸機関との連携を円滑に進めることができた。</li> <li>たけのこ学級の児童との交流により、通常級の児童が知らず知らずのうちに障害者理解を体で体得していた。(人権感覚の向上)</li> <li>高齢者とのふれあい給食を通して、高齢者の方から可愛がられ尊敬の気持ちももてた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ハチの子タイム」でみんなで遊び、青空の下で一緒に給食を食べることが大変微笑ましい。これからもずっと続けて欲しい。</li> <li>染地小学校に来る度に、子どもの様子に笑顔をいただいています。みんなが家族を、これからも大切にしていってください。</li> <li>オリンピック・パラリンピックが来るタイミングもありますが、障害者理解をさらに教育してください。</li> <li>地域のお年寄りも、子どもとの交流を楽しみにしている様子です。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>縦割りで異学年交流の「ハチの子タイム」を来年度も実施し、みんなが家族の仲間意識をもたせる。</li> <li>一人一人を大切にしている学校目標実現のため、授業法改善を図る校内研究を行う。</li> <li>特別支援学級との交流を積極的にすすめる、共生社会実現と人権意識の向上を図る。</li> <li>ふれあい給食や地域行事への参加を通し、地域への感謝と地域の中で育てているふるさと意識を育てる。</li> </ul>	B